

第5回 江東未来会議

(第1分科会：子育て・教育分野)

次 第

日時:平成19年12月13日(木) 午後7時00分～9時00分

場所:文化センター2階 旧区政PRコーナー

- 1 開会
- 2 事務局からの連絡事項
- 3 本日のワークショップの進め方について
- 4 ワークショップ
 - ①前回の振り返り
 - ②具体的な事業と区民と行政の役割分担の検討
- 5 その他
- 6 閉会

(配付資料)

- 第4回江東未来会議 議事概要
- 第4回江東未来会議 子育て・教育分野(グループ討議結果)
- 将来像の実現に向けたアイデア事業案の検討
- 江東未来会議提言書の作成に向けた今後の進め方について
- 江東未来会議提言書の構成(案)

将来像の実現に向けたアイデア事業案の検討

1. 本日の目標

将来像の実現に向けたアイデア事業案の概要を検討します。

2. プログラム (案)

時間	項 目
19:00	◆ <u>オリエンテーション</u> (配布資料の概要、提言書(案)について、本日の進め方)
19:15	◆ <u>前回の振り返り</u> ◆ <u>実現に向けたアイデア事業案の検討</u> ・グループでの話し合い&案づくり 80分程度 (適宜休憩)
20:35	・全体会議 (各グループの案の発表&意見交換) 20分程度
20:55	◆ <u>次回の予定</u>

3. 進め方 (案)

(1) 前回の振り返り

事務局で作成した取りまとめのうち、アイデア事業に関わる部分を全員で確認していきます。これを深掘りするか、または、新たに検討を進めます。

(2) 具体的アイデア事業案の検討

① グループ討議 (3グループに分かれて進行します)

- ・グループ内でグループ討議の進行役を決めて頂き、司会の方を中心にグループ全員で討議してください。
- ・討議の結果は、模造紙に直接記入するかポストイットに記入して模造紙に貼付するなどにより、必ず記録を残してください。
- ・これまでと同様に記録に残したい事項は個々人がポストイットに書いて添付することを基本としますが、別途書記役を決め、討議の中で出た重要と思われる意見は、書記役の方が模造紙やポストイットに記載してください。
- ・アイデア事業の具体的内容 (「誰が (取り組み主体)」「何を (取り組みのテーマ)」「何のために (ねらい)」「どのように (取り組み内容)」) が明確となるように、検討してください。

② 全体会議 (情報共有)

4. 次回の検討事項

引き続き、具体的アイデア事業案の提案と区や区民・事業者の取り組みの役割分担の検討を行います。 以上

将来像

- 子どもが楽しく、のびのび成長でき、親も孤立しないで楽しく子育てができ、地域全体で子育てをするシステムがある江東区
- 孤立した子育てのない楽しく子育てができる地域社会を行政主導でつくる

- 社会性や協調性、他者への思いやりの心のある伸び伸び・元気な子ども達
- 親としての自覚をもち、社会を生きる人として子を導く家庭教育
- 家族が互いを尊重し、協力しあえる安心・やすらぎ・笑顔のある家庭
- 不安・悩み・つらさをうち明け、分かち合い、癒される仕組みをもつ社会

問題・現状の認識

子育てに関する親の意識の低さ、家庭の子育て力の問題がある

- 親の認識不足の改善
育児教育は親の責任
- 家庭の機能不全
→家庭支援
- 給食費を払わない→社会規範が崩壊
- 家庭の子育て力の低下
←社会の変化
- 子ども達は何を期待しているか。子ども達のことをもっとよく知るために何をしたらよいか
- 親が核家族化等で子育てを学ぶ機会がない
- 7歳までに座って話を聞くしつけができない
- 両親で働くどうしてもおろそかになる子育て環境

保育園、学童保育とも施設が不足している

- 日本一の保育園待機児童数→認可保育園の大幅増設、区立の保育園新設
→「認証」「認定子ども園」は保育の質の低下を招く
- 100人を超す過密、過大な学童保育
→適切な定員での学童保育増設
→放課後子どもクラブではなく学童保育
- 子ども、親を混乱に陥れている保育園民営化
→実際の検証を十分にやり、子ども達のためになっていないのであれば再検討する
- 見積り余剰
現在の待機児童は参考にならない
- 幼稚園の入所困難
→区立にも3年保育を作る。選択肢の拡大
- 保育園などの数が少ない→数の増加

解決の方向性

家庭が子育ての力をつけていくための家族のあり方を見直す

- 家庭が子どもの居場所として良いものであるために、親の働き方や社会の労働の仕方などにもつとどりがけないといけない。少なくとも子どもの話が聞ける家庭になるように

土日開庁
家計維持者(働いている人)の育児・教育への参加

子育てを学ぶ機会を設ける

- 子育てを学ぶ支援の機会の増加

地域が子育てに関わるしくみをつくる

- 地域社会が子育て、教育にどう関わっていくか、システム・組織づくりが必要
- 地域が子育てに関わるしくみをつくるシステム・組織づくりが必要

助け合いができる子育て社会

- 行政として子育て支援ボランティアを育て、家庭訪問により子育て不安を助ける

地域の実態に合わせて、保育施設の量を確保し、質を高める

- (質が整った) 保育施設の充実
- 重点形成(地域) 南北地域の事情に合わせた配置

- 子育て支援
・保健所⇒訪問指導含め
・子育て支援センター(みずべ)の充実(質・量共に)

何をすべきか

労働時間や休暇制度等子育てしやすい社会システムをつくる

- 子育てがしやすい社会環境づくり
→労働時間、休暇制度等で子育てしやすい社会システム
「8時に家族そろって夕食」はみんなしたいけど、したいと思っただけではない

子育ての仲間づくりができる機会や場所をつくり、仲間づくりを促すヒトを配置する

- 親の支援や仲間づくりの支援→幼児を持つ親の学級の拡大。幼児を持つ親同士が気軽に遊びに行ける仲間作りができる場所づくり
- みずべなど、誰でも参加できるようにする→みずべの職員などによる仲間づくりの促進
- 子育てする親を孤立させず母親や父親の心にそったケアやサポート体制の充実(親の仲間作りやいつでも相談、休息できるケアやサポートをし、親が楽しく子育てできる)

子育て相談窓口や家庭訪問型子育て支援など子育て支援の体制をつくとともに、指導員を育て、保護者を教育する

- お年寄りや子育て親子との交流の場をつくる
・お年寄りの居場所
・子育ての知恵をもらう
- 産前産後の訪問型子育て支援
子育て不安の解消
心のケア、母親の心に添った子育て支援者の養成を実施
- 地域総合センターの建設
子育て中、子ども、青少年、お年寄りの方々が一緒に交じって交流できる場(魔校の有効利用)
- 親(育児中)の相談窓口の不足→みずべ(子ども支援センター)などで気軽に安心して子どもと離れて親の悩みを相談できるようにする
- 指導員の研修
保護者の教育
- 助産師、保健師がもっとやさしく、心にそった訪問をしてください。
- マタニティブルー、産後のうつ
⇒育児支援者、ボランティア訪問
- 家庭訪問型子育て支援。子育てスタートの躓きはささいな事でも大きくなる要因となる。早期の支援は地域ボランティアで支援しよう
- 育児する親(特に母親)の負担が大きいため負担軽減(新生児訪問の第2子以降の実施
育児学級や母親教室など保健所のサポート拡大
- 子育て、育児支援の相談窓口の設置
- 子育て育児負担を軽減させるための対応
育児相談充実
保育施設の充実

既存施設のサービス拡大による保育機能の充実や保育施設の整備を進めるとともに、保育の質を担保する区民参加の仕組みをつくる

- 親の就業に関わりなく保育園の利用をもっと自由に安価にする
- 区民参加の施設運営システム⇒様々な施設ごとの区民参加、運営協議会の設置
- 共働き家庭の支援
・認可保育園
・学童クラブ
↓ 必要数の整備
区立直営含む
- 児童館の機能充実(赤ちゃんから高校生まで)
プレイパーク設置
- 家庭で保育する親への支援が不足→保健所の一時預かりの安価での利用や男女共同参画センター、さくらんぼ保育園のような施設の充実
- 保育園での保育
→「保育の質」を担保、向上させるための区民参加でのシステムを作る(文京区などの区民参加会議)子育て世代でも無理なく参加
- 保育所の不足
→保育所を増やす。子ども園の充実(就業しているかどうかに関わらずみな必要と思う人が利用可能になる)

教育 - 「教育体制」「体験学習」

将来像

■塾に頼らない教育の推進

- 子どもの学力を着実に伸ばす教育体制が確立されたまち
- めまぐるしく変わる社会の波を生き抜く、知力・体力・創造力を育む教育が充実したまち
- 地域の産業、技能など地域の教育力を活かした特色ある学校教育を実現したまち

- 社会的弱者を阻害しない平等な教育を実践するまち
- 子どものもつ能力を最大限に伸ばす早期教育の仕組みがあるまち
- 学校開放や廃校利用などにより子どもも大人も学べる教育施設が充実したまち

問題・現状の認識

親の教育に対する意識格差や経済格差が子どもへの教育に影響を与える

- 親の経済力による平等な教育の実践の阻害はこれからの10年間で表に現れてくるので公的な補助が必要
- 教育に熱心な親と屋間子どもをあずかってくれるだけでも助かるという親との温度差は大きすぎる
- 所得格差が教育格差につながっている

区内の学校同士が交流し、情報交換する場がない

- 教育に関して区内の地域によって違いを感じる。統一する必要はないが、意見交換などの場がない→交流の場

教師の権威低下、知識教育の偏重、体験学習不足など学校教育が弱体化している

- 目的意識のない学校教育
- 知識教育の偏重
- 先生が尊敬されない→大人(親)がしていない、子どもも真似をする
- 体験学習の不足
- 子育ての体験不足→授業に取り入れる
- 学校、学びの貧弱化
- スウェーデン等ヨーロッパの義務教育制度は日本とどこが違うか学びたい

土曜日の学校開校に伴う教師確保は財政面での負荷が大きい

- 世の中の流れは週休2日制になっているので、土曜日、休日の学校での教育のためには教師の増加は避けられない。区の税金でまかなえるか

解決の方向性

家庭の責任、学校の役割を明確化する

- 学校の役割が不明確⇒しつけの責任⇒塾の必要性
- 公教育の充実(予算の配分増)

幼稚園と保育園の格差をなくす

- 幼稚園と保育園の格差をなくす(どちらが良いか)
- 学力の重視自立を助ける基本

基礎的学力をつけるとともに、子どもの個性に合わせ、創造性を発揮して自主的な学習ができる公教育の充実を図る

- 個性に合わせた教育幅広い基準で伸び伸びと教育
- 子どものときから忙しい。ストレス多い子ども。→子ども自ら学びたい気持ちにそった教育づくり
- 競争教育でなく、個性を大切にしつつ、基礎的な力を身につけられるようにする。そのために経済的格差を行政でフォローできるように
- 学校にゆとりと個性がうまれるように自由・創造が生きる行政のあり方が望ましい
- 学校は勉強するところ。学力を身につけさせる塾のいらぬ教育

体験教育や地域の歴史・文化を学ぶことなどを通じて豊かな心を育む

- 子どもの体験教育(ボランティア体験)
- 家庭の子育てで豊かな心の育成、歴史と文化を知ることで人を育てる
- 広い視野、情操人間性を育てたい

しつけ・道徳教育のための家庭や教育機関の連携を図る

- 道徳、躾、家庭と保育、学校との連携
- 親がしつけに責任をもつ→地域のサポート

何をすべきか

幼稚園での生活習慣の体得、学校における学力習得のための教育体制を整える

- 幼稚園を3年間に生活習慣を身につける補助
- 選択肢のたくさんある教育カリキュラム 語学・体育・珠算
- 学校での授業が充実するために協力しあい(助け合って)学べる学級(人数を30人以下にする。様々な能力の子どもが一緒にいる)にする
- 豊かに学べる学校 →少人数学級の充実 →小さい学校を廃校にせず大事にする

学校・地域・家庭の連携により、学習内容の充実と教育体制の確立を図る

- 学校や親のニーズを取り上げコーディネートする人材を提供していくシステム
- 学校と地域・親をつなぐシステムづくりをめざす
- 「図書館と学校との連携」子ども達が読書を楽しめるように
- フィンランドの教育の例のように「生徒サポートチーム」保健師、学校カウンセラー、学校心理士からなるチームで学校と保護者が対立するのを防ぐ機能を果たす

大人・外国人など全ての区民に学ぶ機会を提供する

- 「外国人のための日本語教室の支援」文化センターが窓口の講座を支援。安い授業料・教材費
- 「夜間中学校をつくる」もう一度学び直すチャンスをつくる 外国人の日本語教育のため
- 公教育だけで十分なレベルに向上 ←塾がいらぬ学校・親の責任

農山漁村自然体験の機会をつくる

- 地方で触れあえる環境を体験する機会をつくる⇒砂浜や森・山
- 小学生が農山漁村に長期滞在して体験活動を行えるよう国が補助金を出すとのことから大いに体験学習をすべきである。受け入れ先は一般家庭が望ましいので県市町村にあたり協力をする。
- 農山漁村自然体験の機会をつくる⇒他県と姉妹都市協定を結び
- 子どもの体験する機会の提供充実をめざす→シルバー人材センターの活用等

多様な体験学習、情操教育、コンピューター学習などを取り入れる

- 幼稚園から絵本、本に関心を持ち情操を向上させる
- 小中学生にもっと音楽や美術など心豊かになる授業を充実させる
- 子どもの多様な体験の不足→子どもに農業体験をさせたり、親の働く姿を見せる機会をつくる
- 「コミュニケーションができる子どもを育てる」ライオンズクエストの導入(思春期のライフスキル教育)
- 幼稚園から絵本、本に関心を持ち情操を向上させる
- コンピューター等近未来必要性が高まるものを重視
- 乳幼児と子ども達の交流教育の場に赤ちゃんとの交流の時間を総合的な学習の時間
- 学校教育に体験学習を取り入れる 校舎を増やしていく →自分の将来像
- 「学校と地域とのコーディネートシステムづくり」学校は地域知を必要としている

教育・躾を立て直すために親教育を進める

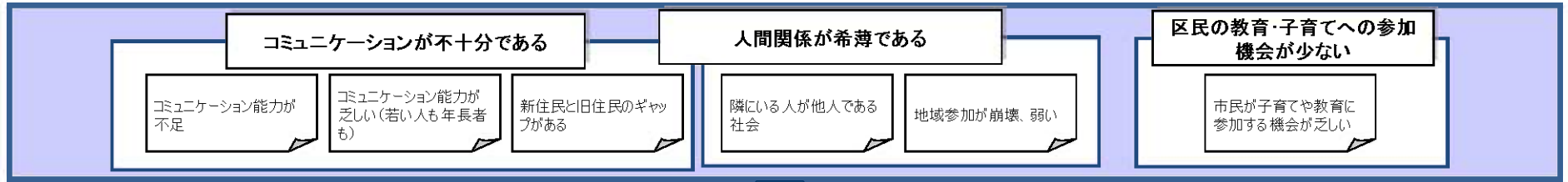
- 学校の地域対策(不良躾対策)我が子可愛さからか全く無理解な親、苦情ばかりで学校を悩ます親指導(対策)をする専任を持たないと
- 特別支援学級の区設置などによる特別支援教育の充実を図る
- 増加する特別に支援を必要とする子どもへの教育 →特別支援学校の新設(臨海部) →特別支援学級のの新設

子育て・教育の基盤としての地域社会

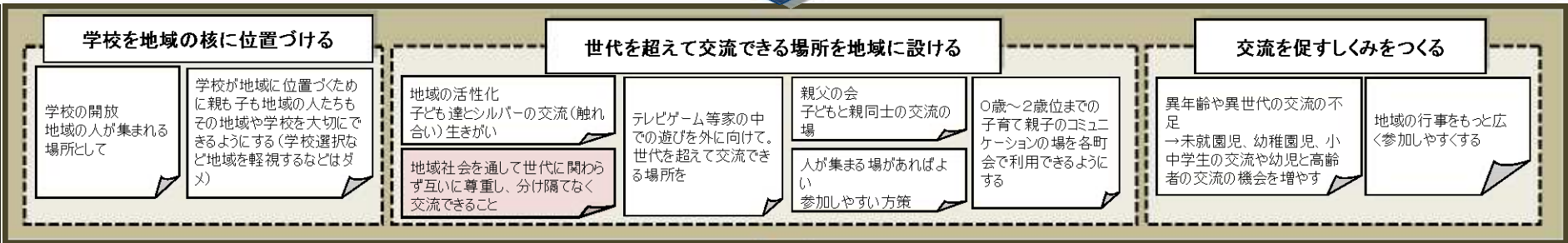
将来像

- 家庭・学校・地域が支え合い・協力しあう子育て社会
- やさしさや互いを愛する心のあるゆとりある社会
- 自然・生物への畏敬の念を育み、地域の人々とのふれあいがある農業体験の場があるまち

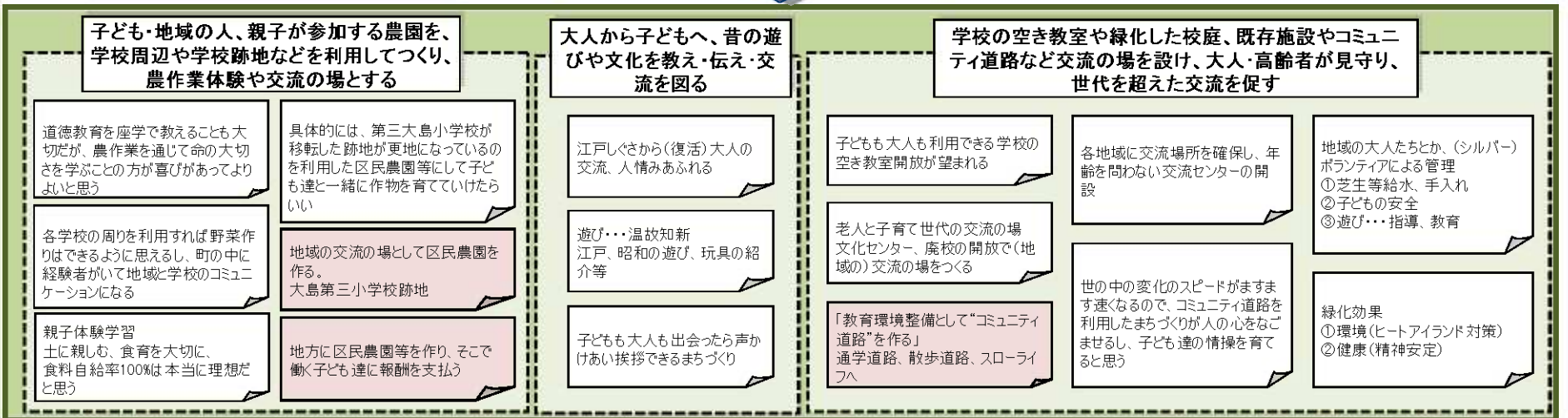
問題の認識



解決の方向性



何をすべきか

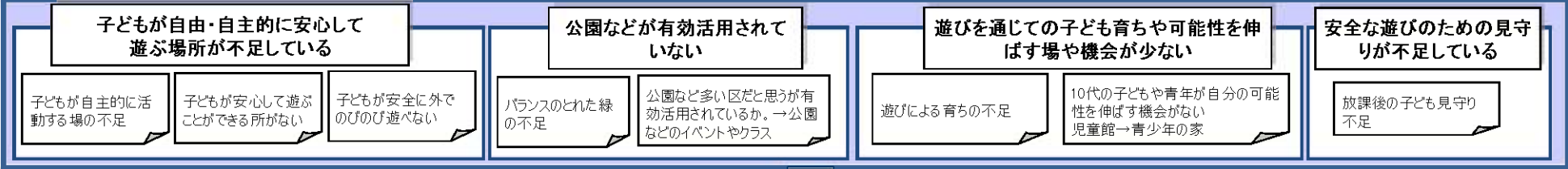


子どもの安全な遊び場・居場所の確保

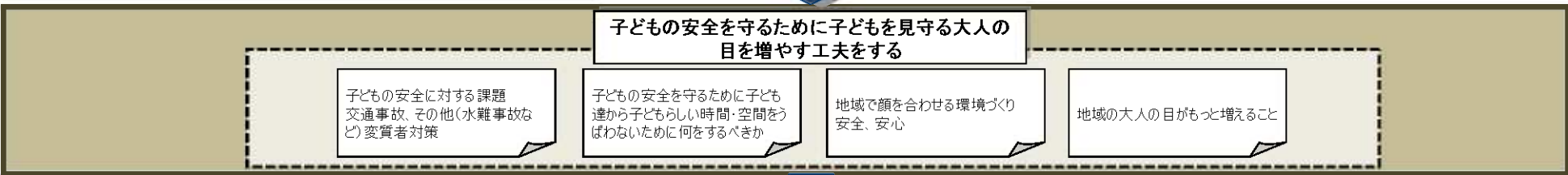
将来像

- 地域の人のとのふれあい・交流がある安心と安らぎの居場所があるまち
- 地域の大人が一体となって見守る安全な子どもの遊び環境
- 子どもが遊び・ふれあい・元気になる親しみのある水辺と豊かな緑のある公園がたくさんあるまち

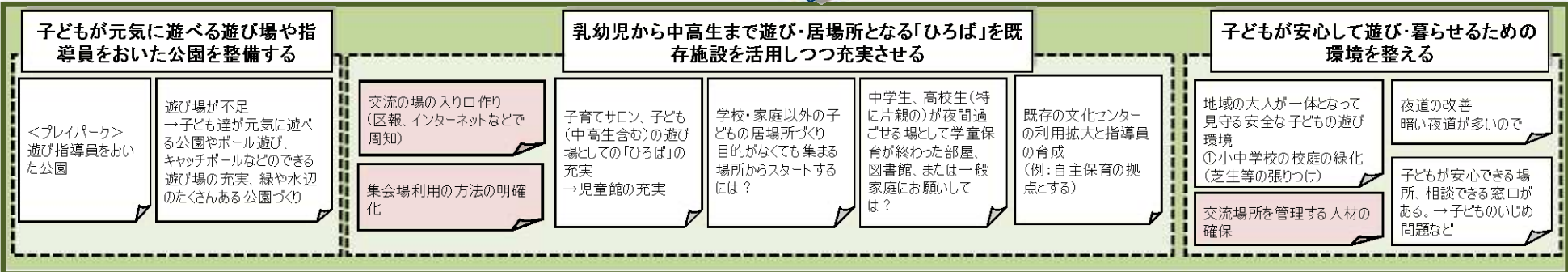
問題認識・現状の



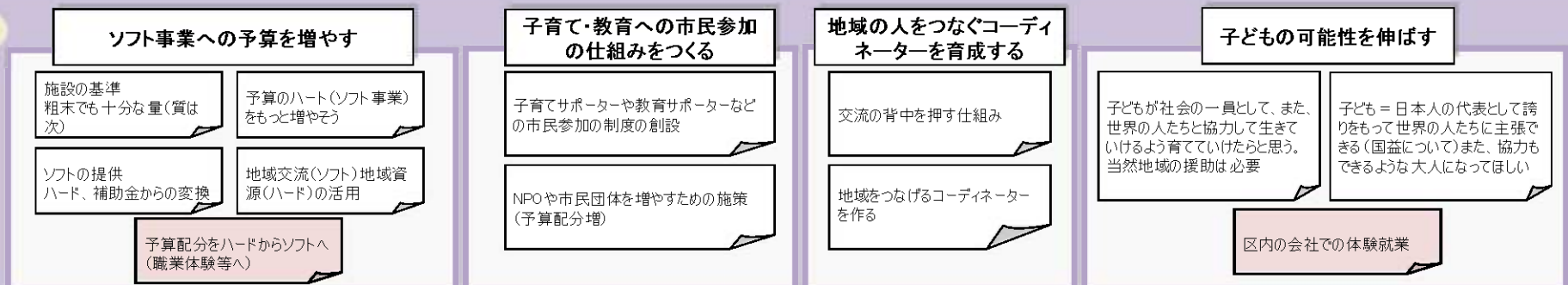
解決の方向性



何をすべきか



行政



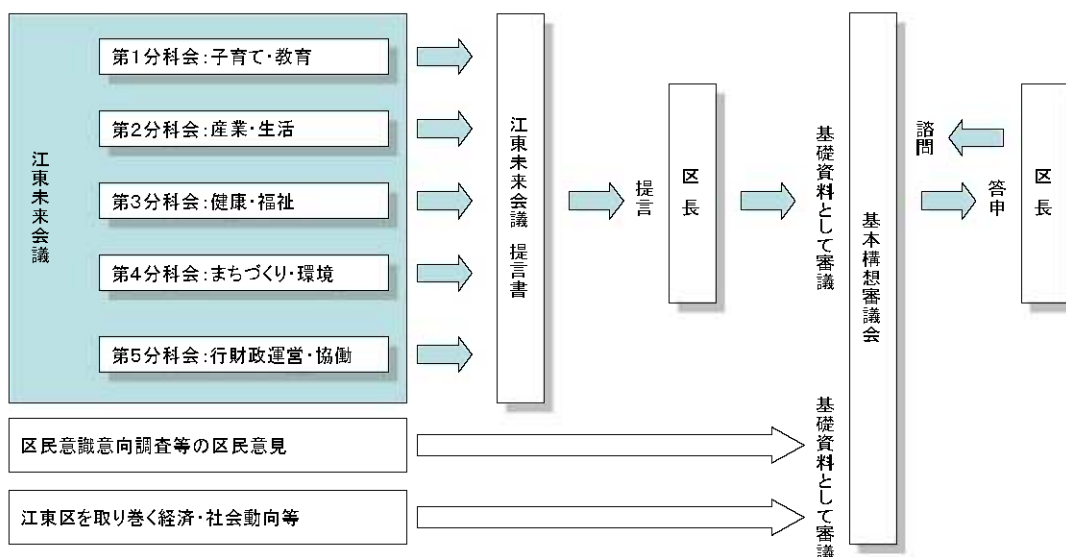
江東未来会議提言書の作成に向けた 今後の進め方について

1. 江東未来会議提言書について

(1) 江東未来会議提言書の位置づけ

- 江東未来会議提言書（以下「提言書」）は、江東区基本構想審議会で審議する際の基礎資料の1つとして、江東区の望ましい将来像とその実現のための取り組みについて、全区的な観点から実現可能性や優先性などを意識し、区民の視点から具体性のある提案を行うために作成するものです。

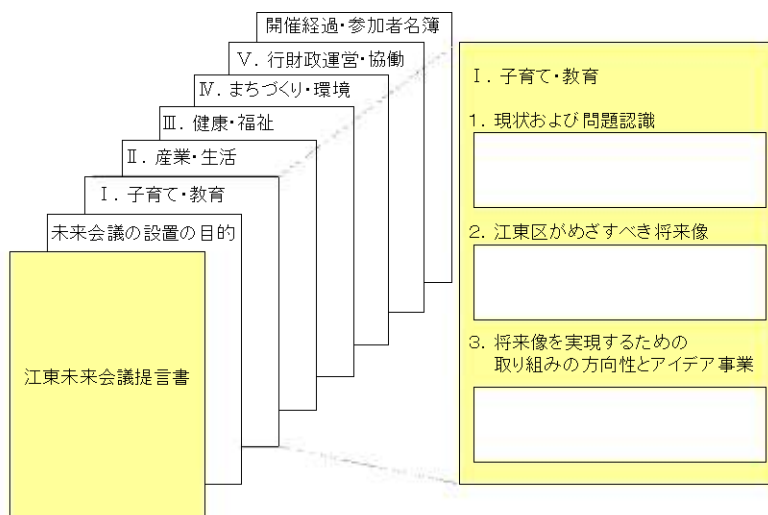
図1 江東未来会議の位置づけ（第1回会議資料再掲）



(2) 提言書の構成

- 提言書は、各分科会の検討対象分野に沿った5つの分野で構成します。
- 各分野の内容は、「現状および問題認識」「江東区がめざすべき将来像」「将来像を実現するための取り組みの方向性とアイデア事業」の3つの共通項目に沿って、各分科会におけるこれまでの検討結果をもとに整理したものとします。

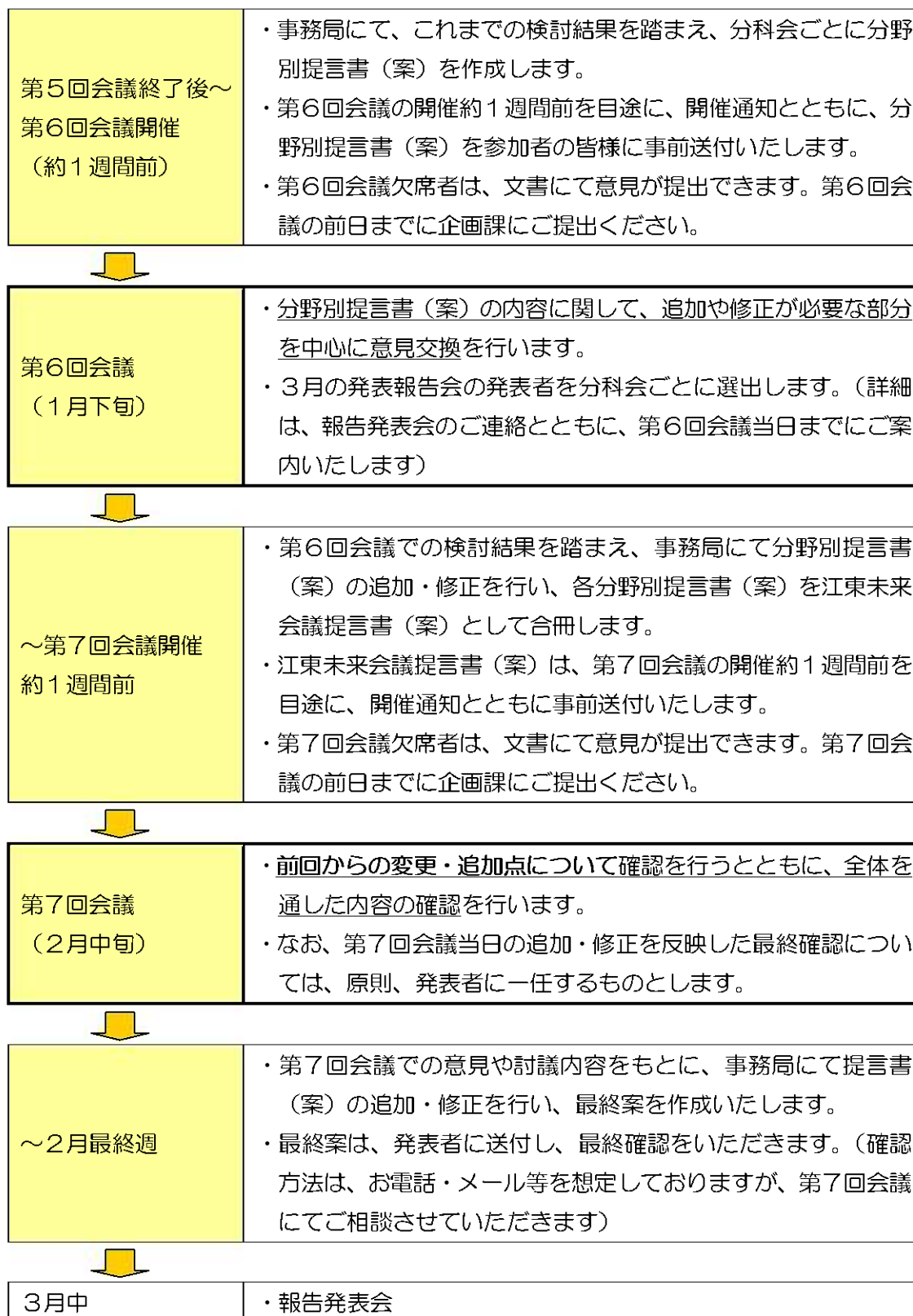
図2 提言書の構成イメージ（詳細別紙参照）



2. 提言書の内容確認の流れ

- ・提言書の内容は、以下の流れに沿って、分科会ごとに確認をいただきます。
- ・第7回会議終了後3月中に、提言書を広く区民に発表し周知することを目的として、報告発表会を開催します。（※報告発表会の詳細については、第6回会議までにご案内いたします）

図3 提言書の内容確認の流れ



江東未来会議提言書の構成（案）

<分野別部分>

II. 産業・生活分野

1. 現状および問題認識

(1) 産業・消費生活

■区内における区民の消費活動が少ない

- ・区民は、銀座や日本橋など区外で消費していることが多くなっている。
- ・

■

- ・
- ・

(2) コミュニティ

■世代間のコミュニケーションの場が必要

- ・
- ・

(3) 文化・観光

■歴史ある下町と臨海部の新しいまちがある

- ・
- ・

現状および問題認識に関する論点整理結果（これまでの討議結果資料を想定）を図として適宜掲載

将来像に対応する3つ程度のテーマ毎に作成

内容を端的に目出し

これまでの検討成果のうち、現状認識（よい点／悪い点）、課題等を、箇条書きで表現

2. 江東区が目指すべき将来像

「～まち」で表現を統一
(提言の冒頭に将来像の一覧
整理を掲載します)

(1) ～なまち

～なまち

将来像の内容を5～10行
の文章で説明

(2) ～できるまち

～できるまち

(3) ～のまち

～のまち

将来像に関する論点整
理結果(これまでの討議
結果資料を想定)を図と
して適宜掲載

3. 将来像の実現に向けた取り組みの方向性とアイデア事業

(1) ~のまちを実現するために

①取り組みの方向性

<input type="checkbox"/> ~を進めます
<input type="checkbox"/> ~に努めます
<input type="checkbox"/> ~を図ります
<input type="checkbox"/> ~

.....

.....

.....

.....

.....

取り組みの方向性の内容を
5~10行の文章で説明

②実現に向けたアイデア事業

<〇〇事業>

将来像の実現に向けたアイデア事業の概要（取り組み主体・取り組み内容・ねらい等）を表現します。全くの新規アイデアから既存事業の見直しまで、対象も地域コミュニティレベルから、区外を対象とした大規模なキャンペーンまで、多岐・広範に及ぶことが想定されるため、表現の様式は各部会・各将来像自由とします。ただし、全体のバランスを考慮し、各将来像で最大1頁以内に収めるものとします。

(2) ~のまちを実現するために

①取り組みの方向性

②実現に向けたアイデア事業

(3) ~のまちを実現するために

①取り組みの方向性

②実現に向けたアイデア事業